

岩城山岳

第 25 号

2021 年 8 月



Miyagi Section of The Japanese Alpine Club

目 次

1	巻頭言・・・支部長 千石信夫「支部長就任のご挨拶」・・・	2
2	2020年度の月例山行記録・・・事務局・・・	4
3	2020年度の山行以外の宮城支部活動記録・・・事務局・・・	12
4	2020年度宮城支部以外の行事参加記録・・・事務局・・・	13
5	紀行・随筆・エッセー・・・	13
	「4年間を振り返って」・・・ 富塚和衛	
	「ステイホーム 一考」・・・ 木皿 謙	
6	新会員・新準会員 自己紹介・・・	17
	「皆さんと楽しい登山を」・・・ 佐藤将太	
	「初めての登山」・・・ 遠藤幸壽	
7	追悼・・・	20
	「鈴木晃三さんを偲んで」・・・ 柴崎 徹	
8	宮城支部定例事業の概要・・・事務局・・・	24
9	「宮城山岳通信」メール配信のお知らせ・・・事務局・・・	25
10	宮城支部収支会計報告・・・事務局・・・	26

表紙写真：蔵王のお釜（撮影：富塚和衛会員）

裏表紙写真：蔵王に咲くコマクサ（撮影：富塚和衛会員）

巻 頭 言

支部長就任のご挨拶

支部長 千石信夫

一昨年からのコロナの影響で自粛が相次ぎ、行動の制限など何かとストレスを感じておられることと思います。そのような状況の中でも、会員の皆さんはそれぞれ体力維持に山歩きをされていると思います。

昨年突然コロナ感染が発生し、様々な自粛ムードが広まりつつあったころ、私は3密ではない登山は、絶好のスポーツであると早計に思っておりました。しかしながら、そうとも言えなく、会としては自粛を提唱されてしまいました。首都圏の高尾山などのような混雑するところや小屋泊まりの山行などは、当然リスクがある状況だと思いますが、目的の山の状況をよく把握し、人との距離、車の移動などの注意をしっかりと守れば、いたずらに恐れることはないように思います。

さて、4月26日メールで審議が行なわれた支部総会におきまして冨塚支部長の後任に、支部長に任命されました。元支部長が再任ということで、いささか複雑な思いを感じているところです。

支部会員の減少や、高齢化の問題については長年の課題ではありますが、歯止めがかからないのが実情であろうかと思えます。これらへの対策は必須であると思っております。この状況下での支部運営におきまして大きな責任を感じざるを得ません。あらためて会員の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

支部事業につきましては、令和3年度の事業計画をご承認いただいておりますが、コロナ下の考え方として、特に今年度は感染のリスクを避けることに留意したいと思っております。

1. 公益事業については自粛する。
2. 共益事業の月例山行はコロナ対策を守りながら6月から開始する。
3. 支部企画は遠出を避け日帰りとする。

以上のようなことを心がけて活動してまいりたいと思っておりますので、ご理解頂ければ幸いです。

もうひとつは、日本山岳会 120 周年に向かって大きな記念事業が進んでおります。それはご承知の通り「全国山岳古道調査」です。今年度には調査古道が決定されえることになっていると思いますが、支部においても具体的に調査活動を開始したいと思っております。これから皆さまとともに検討し進めてまいりたいと思っております。

今年度は支部山行を、安全に、楽しむことを考えて山登りをしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。会員の皆さまと山でお会いできることを楽しみにしております。

最後になりましたが、富塚前支部長には、事務局、編集委員長も兼務され、支部活動の為に大変ご尽力いただきましたことに深く感謝申し上げます。引き続き事務局としてご苦勞おかけしますが、よろしく願い申し上げます。

そして、この『宮城山岳』25号発刊には、新しく鳥山会員が編集委員長として担われることになり、大変心強く思っているところでございます、快くお引き受けいただき、ここに感謝を申し上げましてご挨拶いたします。

2020 年度 月例山行記録

【共益事業山行】

(1) 蝉時雨山行（北屏風岳）

- ・実施日：令和2年7月28日（火）
- ・山 域：蔵王連峰北屏風岳（1825m）
- ・コース：蔵王町ふるさと文化会館前駐車場—南蔵王登山口—前山—杉ヶ峰—芝草平—北屏風岳—杉ヶ峰—南蔵王登山口—蔵王町ふるさと文化会館前駐車場
- ・参加者：会員＝富塚和衛、富塚眞味子、横山哲、支部友会員＝多田孝徳、佐藤富士子、村上敏郎、鳥田伊志、津久井宏（計8名）
- ・報告者：富塚和衛

新型コロナウイルス感染の懸念で4月から支部活動を自粛していたが、7月2日の臨時役員会で7月から新型コロナウイルス感染に配慮の上、支部活動を開始することになりました。

自肅後、最初の山行として蟬時雨山行を計画したが、台風 12 号の影響による荒天が予想されたため、蟬時雨山行は中止を余儀なくされました。

(2) 夏山山行 (北屏風岳)

・実施日：令和 2 年 8 月 28 日 (金)

・山 域：蔵王連峰北屏風岳 (1825m)

・コース：蔵王町ふるさと文化会館前駐車場—遠刈田温泉公民館無料駐車場—南蔵王登山口—大黒天—剣ヶ峰—刈田岳避難小屋—刈田岳—馬の背—熊野岳—熊野岳避難小屋—山頂レストハウス—刈田岳—大黒天—遠刈田温泉公民館無料駐車場

・参加者：会員＝富塚和衛、富塚眞味子、横山哲、加藤知宏、支部友会員＝村上敏郎、鳥田伊志、蔭山美緒子、針生紀子、津久井宏 (計 9 名)

報告者：富塚和衛

例年の「夏山山行」は、日本アルプスの代表的な山域に出掛けて登山を楽しんでいたが、今年度は新型コロナウイルス感染を考慮して、県境を跨ぐ遠征は控えて県内で実施する事とした。また、7 月予定の「蟬時雨山行」は荒天の為、中止を余儀なくされていたので、山行計画をそのまま引き継ぐ形で「夏山山行」を実施する事とした。

参加者にとっては待ちに待った山行だったようで、予定集合時間 20 分程も前に全員が揃ってしまった。簡単なミーティングを行い、蔵王町ふるさと文化会館前駐車場から遠刈田温泉公民館無料駐車場に移動し、此处で 3 台の車に分乗して南蔵王登山口を目指す。処が予想もしなかった事態が待っていた。登山口近くの上り車線で道路の補修工事が行われており、登山者が利用している駐車スペースが閉鎖されていたのだ。わずかに利用できるスペースも先客の車で満車状態。他を探すも平日にもかかわらず観光客も多く見つからない。仕方なく北屏風岳往復は諦めて、大黒天の駐車場に移動し、此处から刈田岳を經由して熊野岳 (1841m) を往復することにした。

登山開始が 10 時を過ぎてしまった。まずは大黒天から刈田岳を目指す。このルートは刈田岳まで約 1 時間。観光客も往復する観光ルートだ。道端にはヨツ

バヒヨドリの花が咲く。この花の蜜を求めてアサギマダラが飛び交う。右は火山特有の赤茶けた山肌。この二つのコントラストが実に良い。剣ヶ峰で一休みして刈田岳に歩を進める。コースタイム通りの時間で刈田岳往復。此处から見る蔵王のシンボル「お釜」は絶景だ。

右手にお釜を見ながら馬の背を山形県に位置する熊野岳へと歩みを進める。観光客と思しき人が平日にもかかわらず結構往来している。途中から熊野岳への直登コースを登り詰めて山頂に到着する。刈田岳からは40分ほどの行程だ。

熊野岳の山頂はほぼ平坦だ。道標が立っていないと何処が山頂か分からない。熊野神社に参拝して昼食を摂ることにしている熊野岳避難小屋に向かう。避難小屋は宮城県の管理だ。真ん中にストーブが置いて



ある。火山噴火を想定してかヘルメットも数多く備えてあった。

昼食タイムとして30分ほど避難小屋で費やす。そのあと馬の背を戻り、避難所併設の頂上レストハウスへと下って行った。途中で数人が地面を掘り起こし、地質調査らしき作業をしているのに出くわした。近づいてお話を伺うと、地層から火山活動の年代を調べているのだと言う。最新の火山活動（噴火）は、100年ほど前の明治期の活動であることも教えてくれた。調査していたのは、山形大学の先生と学生達だった。

レストハウスでトイレタイムを取り、来た道をマサギマダラに見送られながら大黒天駐車場へと下って行った。遠刈田温泉公民館駐車場に着いたのは15時30分。其処で解散、三々五々帰路に就いた。

（3）初秋山行（大東岳）

- ・実施日：令和2年9月27日（日）
- ・山 域：二口山塊・大東岳（1366m）

・コース：大東岳登山口（7：30）—5合目（9：30着～9：40発）—大東岳（11：30着～12：00発）—樋ノ沢避難小屋（13：30着～13：40発）—雨滝入口（14：50着～15：00発）—大東岳登山口（16：00着）解散

参加者：会員＝富塚和衛、富塚眞味子、太田正、草野洋一、支部友会員＝津久井宏、鳥田伊志、庄子美佐子（計7名）

・報告者：富塚和衛

初秋山行は仙台市内で最高峰の充実した山行が楽しめる二口山塊の盟主・大東岳（1366m）に挑むことにした。この大東岳は特徴あるトロイデ型の火山で、台形上の山頂は仙台付近から望むことができる。

7時に登山口の駐車場に集合する。駐車場には山栗の実が落ちていた。いよいよ秋本番、標高の高い山では紅葉が見ごろの季節だ。空模様は霧雨がそぼ降る、すっきりしない曇天だ。7時30分、登山口をスタート。往路は表コース、復路は裏コースの周回コースの予定だ。先ずは小行沢、立石沢沿いに杉林の中の緩やかな道を行くと、渡渉が待ち構える。数日前の雨の影響で水量が多い。

立石沢を右手に暫く行くと、立石沢の標識が立つ広場に着く。此处で休憩を取る。周囲は雑木の森だ。広場から直ぐ渡渉、ここを過ぎると傾斜のある九十九折の道となる。周囲はブナ林へと植生を変える。尾根沿いの5合目に着いたのは9時20分。ほぼ予定通りの時刻だ。5合目は狭いが広場になっており、一本取るのには絶好の場所だ。



5合目からは本格的な登りになる。ひと踏ん張りして登り詰めて行くと平坦な道になり、こぶし平に着く。こぶし平から8合目を過ぎすと、愈々、最後の難関急登の「鼻こすり」が待ち受ける。だが、登ってみれば意外と大した急登でもなかった。

「鼻こすり」を登り切り、背丈ほどの笹が生い茂る道を行くと大東岳の山頂に出た。時刻は11時20分。登山口を出発してから4時間弱の行程だった。山頂

で談笑しながら昼食を摂る。大東岳の山頂には、旧字体の漢字が刻まれた一等三角点が設置されている。県内に設置されている 14 の一等三角点の一つだ。

30 分ほど山頂で過ごし下山することにした。計画では裏コースを取り、周回する事にしていたが、空模様が思わしくなく、また滑りやすい箇所も多くあることから安全策を取り、登って来た道を引き返すことにした。帰路は 5 合目で休憩を取っただけで、一気に登山口まで下った。登山口に着いたのは 15 時過ぎ。7 時間 30 分程の行程であった。宮城支部月例山行に初参加の支部友さんにも曇天下ではあったが、楽しんでもらえた山行ではなかったかと思う。

(4) 秋季山行 (南蔵王・北屏風岳)

・実施日：令和 2 年 10 月 13 日 (火)

・山 域：南蔵王・北屏風岳 (1825m)

・コース：南蔵王登山口—前山—杉ヶ峰—芝草平—北屏風岳 (往路下山)

・参加者：会員＝富塚和衛、富塚真味子、鳥田笑美、草野洋一、支部友会員＝鳥田伊志、津久井宏、多田孝徳、佐藤富士子 (計 8 名)

報告者：草野洋一

この山行は 7 月に蟬時雨山行として計画しましたが、大雨のため中止。再度 8 月に夏山山行として計画しましたが、当日、登山口に向かったところ、道路工事に阻まれて実行できませんでした。そこで計画完遂をと再度計画しました。

遠刈田温泉の遠刈田公民館の駐車場に 7 時半集合。2 台の車に分乗して刈田峠へ。道路脇の駐車スペースは、道路工事車両が止まっていて止められなかったが、登山口に近いところに車 2、3 台止められるスペースがあって駐車することができた。

前日まで雨だったが、当日は洗濯日和の予報で期待したのだったが、登山口に着いたら小雨だった。全員合羽を着て 8 時 30 分出発。小雨から霧雨になり、芝草平に着いても霧雨。ガスがかかって周囲の景色は何も見えないので小休止して出発する。北屏風岳に 11 時半着。紅葉した蔵王連山の展望を期待していたが、相変わらずガスがかかっていて、頂上から周辺の山を見ることはできなかった。集合写真を撮って早々に往路を下山する。芝草平で昼食をとる。このあ

たりから雨も上がって、ベンチでゆっくりと食事をとることができた。ただ午前中よりも気温が下がってきて、合羽を着ていても寒さが身に沁みてきたので、予定より早く切り上げて出発。



下山中に一瞬ガスが切れて紅葉に染まっている山腹を見ることができたのは幸いだった。登山口に15時20分着。公民館駐車場へ戻って解散した。共同浴場でひと風呂浴びようとしたが、コロナ禍のため夕方に開湯とのことで入れなかったのは残念でした。

(5) 晩秋山行 (五社山)

・実施日：令和2年11月21日(土)

・山 域：五社山

・コース：樽水ダム湖畔駐車場—登山口—三方塚—外山—五社山—登山口—樽水ダム湖畔駐車場

・参加者：会員＝太田正、鳥田笑美、加藤知宏、富塚和衛、富塚眞味子、佐藤昭次郎、支部友会員＝村上敏郎、庄子美佐子、鳥田伊志、津久井宏(計10名)

・報告者：太田正

樽水ダム湖畔公園に集合。10名の参加者で樽水ダム上流の県道118号線脇にある登山口に移動し入山。コースに入りまもなく宮城県で設置した「名取市愛島北目字外山一番地の上流端を示す標柱」と記された立派な標柱と出会う。これは増田川源流を指すもので、ここから沢沿いに登山道を進む。

やがて登山道もなくなり沢に入るが、時期的に雨量も少なく、暑くもない今回は最も良い季節であろう。2時間弱で三方塚方面の尾根に突き上げる沢を離れ、右方向の尾根(少しヤブ漕ぎ)に取り付き、20分程で尾根の登山道に出る。ここからは本当のハイキングコースで、三方塚、外山と快適に歩き、五社山でゆっくり昼食をとり、再度、標柱のある場所に一周して戻り、118号線脇の登



山口に出て終了する。

いつもの山行だが若い人は2人のみで、あとは70代または近い方。ほとんど人が入らない、登山道もない変な場所を歩き、喜々としているポジ

ティブな方々益々元気ですね。

(6) 初冬山行 (薬菜山)

・実施日：令和2年12月13日(日)

・山 域：加美郡加美町 薬菜山(553m)

・コース：やくらいガーデン駐車場—登山口標識—南峰—北峰—《昼食》—北登山口—やくらいガーデン駐車

・参加者：会員＝富塚和衛、富塚真味子、鳥田伊志、鳥田笑美、加藤知宏、準会員＝新井田裕治、支部友会員＝村上敏郎、庄子美佐子 (8名)

・報告者：加藤知宏

2020年はコロナ禍のため、山行を自粛する期間があったが、12月の月例山行は薬菜山にて無事行うことができた。

当日は、やくらいガーデン駐車場に到着した時点で吹雪いていた。やくらいガーデン駐車場から、登山口標識に続く桜並木の道を500mほど山に向かって登る。樹林帯に入ると登山口と記された標識があり、そこから急登が始まった。樹林帯は雪が積もり、完全な冬山の体を成していた。少し登ると薬菜山名物の706段の急な階段が出てくる。ここが薬菜山登山の一番の難所である。メンバーの登るペースや疲労度を見ながら、ゆっくりゆっくりと登り続ける。他に登っている登山者とも談笑しながら、辛い階段を登り切ると傾斜が緩くなる。この時点で朝から吹雪いていた天気は、雪が止み曇り空となっていた。

広葉樹の尾根道を進むと、薬師堂のある南峰に到着した。船形連峰を望む南峰は宗教上の山頂で、三角点は北峰にある。途中の暗部には姥神の石像がある。怖い顔をしているが、病氣治癒や商売繁盛にご利益のある神様である。北峰の

葉菜山山頂に到着すると、東側の展望が開け、鳴瀬川や大崎平野が一望できた。ここで小1時間ほど昼食休憩をとる。

下山は北へと一直線に下る。道は雪でぬかるんでおり慎重に下山する。北登



山口まで下ると舗装道路に出た。

ここからは、やくらいガーデンに向けて平坦な車道を30分程度歩く。午後1時5分にやくらいガーデン駐車場に到着した。メンバー皆元気な様子で、ほぼコースタイム

ム通りで到着することができた。

今回山行の総括として、出発時点で吹雪という悪天候な状況だったこともあり、ペース配分の難しさを感じた。今後の山行でリーダーを務める際は、メンバー各員の疲労度、歩くペース、休憩のタイミングなど、全体を掌握しながら落伍者が出ないように努めていきたいと思う。

最後に、多くの方に参加いただき、ありがとうございました。

(7) 厳冬期山行(三方倉山)

- ・実施日：令和3年2月28日(日)
- ・山域：三方倉山
- ・参加者：会員＝佐藤昭次郎、冨塚和衛、冨塚眞味子、草野洋一、横山哲、支部友会員＝鳥田伊志、庄子美佐子、津久井宏、多田孝徳、佐藤富士子(10名)
- ・報告者：佐藤昭次郎

1921(令和3)年2月28日、2、3日前から日中でも気温が上がらず、厳冬らしくなった。今日は朝から雲一つない絶好の登山日和。この時期の朝晩気温差は大きく、仙台でも今朝-5℃、日中は10℃を越すという予報。

期待を胸に集合場所へ、今回は厳冬期登山という恒例行事、装備はピッケル、アイゼン、カンジキをはじめ相応の対応を要請し募集しました。今回この山行のため揃えた方、借りた方など10名が集合しました。催行にあたり支部長から挨拶を受け、そのあと担当の私より本日の行動スケジュールと、冬山の基本、

斜面の上り下りと滑落時の対応など、10分ほど時間を戴き厳冬期登山の話をしました。前述の通り装備はあるものの、使用経験がない方が多いので、行けるところまでの了解を得て、予定時間より少し遅れましたが、出発。



林道も新たな降雪も無く、夏道部の雪面は締まってカンジキも全く必要無し、快適そのもの。トレースを外れても潜る事はない。夏道のシロヤシオ・コースを途中まで進み、ここで休憩と

不必要なカンジキをデポして、アイゼンを装着し出発、ここから斜面がきつくなる。アイゼンのツアッケが効いて快い。斜面上の大きなブナの幹元を利用して数回休憩をとりながら進むと、最も傾斜がきつい 750m位の場所で後続が滑落。それに伴い後続も滑落、幸いにも 10m程のところの樹木で停止した。その救出で下方に廻り、安全な場所へ移動させていたところ、後尾の会員らも滑落。11時下山を決定。

なるべくブッシュが有る部分を慎重に下る。途中で右手の斜面をゆっくりとしたトラバースし寄ってくる単独者が合流し、話を聞くと、夏道のブナ・コースを登り、山頂から夏道のシロヤシオ・コースを下りて間もなく滑落し、打撲したらしく歩行が辛いとの事。自力で下山したいとの事で、気に掛けながら下山しました。途中のデポ地点で昼食を摂り、単独者の到着を待って下山した。

集合場所の駐車場で、今回の「厳冬期山行」を各自で反省して、今後それを活かして登山してもらいたい事を話し、13時解散としました。その後、14時過ぎ単独者が下山したことを確認後、帰宅しました。

【公益事業山行】

コロナ感染拡大の影響で、予定していた下記の山行は全て中止となった。

- 令和2年5月2日～4日 積雪時登山技術講習会（蔵王）
- 令和2年5月24日 第10回親子登山教室
- 令和2年6月26日～27日 第36回東北・北海道地区集会交流山行(階上山)

○令和2年7月28日 第9回登山教室（北屏風岳：蟬時雨山行に変更）

○令和2年11月21日 第10回登山教室（五社山：晩秋山行に変更）

2020年度山行事業以外の宮城支部活動記録

コロナ感染拡大の影響で、予定していた下記の活動も中止及び自粛した。

○第36回日本山岳会東北・北海道地区集会

○令和2年8月2日 令和2年度宮城支部ビールパーティー

○令和2年12月20日 令和2年度宮城支部年次晩餐会

2020年度 宮城支部以外の行事参加記録

（1）令和2年度支部連絡会議参加報告

報告者：冨塚和衛

令和3年1月30日（土）、本部主催の支部連絡会議がオンライン会議（ZOOM）として開催され、これに参加しましたので報告します。

冒頭、古野淳会長から、新型コロナ下での工夫ある支部活動の推進及び日本山岳会設立120年記念事業への協力要請、特に全国山岳古道調査と本部、支部が所有する山岳関係資料のデジタル化について、各支部と力を合わせて推進していく旨の挨拶があった。その後、総務担当の永田弘太郎常務理事司会のもと、会議が進められた。

会務報告として、①支部事業委員会の報告、②財務会計について、③記念事業委員会の報告、④山岳古道調査について、⑤公益法人運営委員会の報告（パワハラ防止法、新聞記事の配信・配布について、理事の定年と任期について、復活会員制度について）、⑥会員名簿について、⑦改革事業委員会と広報委員会について、⑧東京多摩支部の遭難事故について、それぞれ本部の各担当理事等から説明資料を基に報告があった。その後、意見交換があった。

初めてのZOOM会議の為、不参加の支部もあった。

尚、5月16日～17日宮崎市で予定されていた「第36回全国支部懇談会」はコロナ感染拡大のため中止となった。

紀行・随筆およびエッセー

4年間を振り返って

前支部長 富塚和衛

私が宮城支部長をお引き受けしたのは、2017年度の4月の総会からである。10代目の支部長として以降、2021年の4月の総会までの2期4年間務めさせて頂いた。無論、お引き受けするに当たっては、山岳文化、登山技術等に見識ある諸先輩が多くいる中、「山」に関する知識も技量も浅く、登山の経験も未熟な輩が、果たして伝統ある宮城支部の支部長が務まるのか不安な気持ちがあったのも事実であるが、その4年間を振り返ってみたい。

宮城支部が実施している事業は大きく、定例役員会、月例山行、支部報発行、親睦事業の4つのカテゴリーに分けられる。これらの事業は各種委員会の委員長及び事業担当幹事を中心に実施される。このうち支部活動のメインは、何と云っても月例山行である。

支部長就任後初の月例山行は4月30日の春山山行であった。三宅山行集会委員が担当し、仙台市近郊の戸神山で行われた。この山行は故佐々木委員追悼の山行でもあった。また、支部長として山行時の挨拶を初めてしたのも、この山行で思い出の山行でもあった。以降、公募型の登山教室、親子登山教室、遠征夏山登山（日本アルプス）を大きな事故もなく実施してきた。この間、他支部会員の遭難事故死を重視した本部の意向もあり、「宮城支部登山計画書に関する取扱い基準」を定め、安全登山及び遭難事故防止に資するために運用を開始した。また、2019年度には、千葉会員の企画で、チロル・ドロミテ地方をトレッキングしながら、ヨーロッパアルプス東部の山岳風景を堪能したのも思い出の一つとなった。

二つの大イベントも実施させていただいた。一つ目は10月の「台湾遠征玉山登山」、11月の「記念祝賀会」、60周年記念誌発行の3事業を実施した2018年度

の「宮城支部設立 60 周年記念事業」である。台湾遠征では黄理事長、張玉龍顧問をはじめとする中華民国山岳協会の皆様には大変お世話になった。改めて感謝申し上げたい。二つ目は、特別委員会（千石委員長）を設置し、計 7 回の打合せ会を開き蔵王を会場に実施した 2019 年度の「第 35 回東北・北海道地区集会」である。「蔵王古道」を歩く交流山行



は、参加した各支部長からも好評を頂いた。在任中、東北・北海道地区集会には、第 33 回が岩手の遠野三山、第 34 回が山形の出羽三山での開催に参加したが、担当支部の嗜好が楽しくもあり、嬉しくもあった。更に、全国支部懇談会は、第 32 回（新潟の弥彦山）、第 33 回（茨城の筑波山）、第 34 回（北海道の大雪山）、第 35 回（栃木の奥日光）に参加、各支部との懇親を深めるまたとない機会となった。

また、2019 年 10 月に秘湯「鶴の湯」での「秋田支部設立 60 周年記念祝賀会」、2018 年 6 月の岩手・秋田支部と共催した「岩手・宮城内陸地震 10 周年栗駒山メモリアル合同登山」、山形支部との合同山行等も記憶に深く残る催しであった。宮城支部に所属していなければ経験できない貴重な体験でもあった。

役員会も思い出が尽きない。会議中に意に反する大きな声を出してしまうことも多々、役員会の皆様には不快な思いをさせてしまった。これも宮城支部の為にと考えてのこと、お許しいただきたい。

親睦事業として、夏のビールパーティ、年末の晩餐会&オークションを実施してきたが、寂しいことに年々参加者が減り続けており、いま置かれている宮城支部の現状が垣間見られるような気がして寂しくもあり残念でならない。

中国の武漢市が発生源と言われる新型コロナウイルス感染は、ワクチン接種が始まったものの未だ終息の兆しは見えない。東京オリ・パラ開催も予断を許さない状況の様だ。新型コロナ感染は宮城支部の活動にも影を落とし、活動自

肅を余儀なくされて来た。当分の間、新型コロナとの戦いは続くものと思われるが、以前のように自由闊達な山行が可能となる日が早く訪れること、更には宮城支部の活動も元気を取り戻すことを期待し、次期執行部にバトンタッチしたいと思う。

4年間、会員、準会員、支部友会員、そして関係者の皆様には大変お世話になりました。本当に有難うございました。

ステイホーム 一考

木皿 謙

昨年2020年の年明けと同時くらいに、想像も経験もしたことの無いコロナ禍に、日本中いや世界中が振り回され、未だにその結末が見えていません。

そして5年前招致に成功したと言って国を挙げて大喜びした東京オリンピックも1年延期され、今年も催行されるかどうか議論伯仲の状態です。コロナ禍を乗り切るためと言って国民みんなが外出を控え、職場環境もテレワークなど皆が経験したことの無い体験、我慢を強いられてきました。小学生の投稿に、“学校の体育大会が中止になったのに、なぜオリンピックはやるの？”との疑問が出されました。そうこう言っているうちにも感染者は増え続けています。このことの是非、成り行きについては、本誌が上梓される頃に、結論が出ていると思われるので、ここでは触れません。

私がJACに入会させていただいたのは昭和55年、約40年前のことです。熱心に誘ってくれた友・佐々木郁男さんは10年前に他界されました。彼は山行が大好きで、学生時代から色んな所に行きました。彼に誘われて登った山、数知れず、以前のように出掛けられなくなった今、アルバムをめくって往時を偲ぶのみです。

彼は稀代の大躰（いびき）の持ち主、行った先々の宿でも山小屋でも、色んなエピソードを残しました。そして、また名だたる酒好きで、こちらも話題に事欠かない楽しい思い出がたくさん残されています。その時、よく聞くのが、郁男さんの七度（いびき）に及ぶヒマラヤ行の記録文集です。

いつも大雑把なイメージの彼からは想像できない総てに、きちんと整理され

た紀行文は素晴らしいものです。

よく彼が言っていた山登りというものは――

①山岳部に入って、先輩達にシゴかれて登ってたころ

②鬼のような先輩から解放され、山よりも愛しい彼女が出来たころ

③生活が安定して、落ち着いてからの山登り

の、3つの流れがあるんだと、よく言っていました。

①と②の間が、やたら長く、そこで山と縁切れになってしまうタイプが多いようです。私もその口でしたが、郁男さんに引っ張られてJACの皆様方との縁が出来、今に至ってるというところですよ。

何時まで続くのかコロナ騒動……。ワクチンも2度目の接種を終えて、どこから声がかかってもスタンバイOKの状態ですが、体力がついていくか心細いところです。皆さん、どうぞご自愛ください。

新会員・新準会員 自己紹介

皆さんと楽しい登山を

佐藤 将太

簡単に自己紹介をしたいと思います。私は宮城県名取市出身で、昭和62年生まれの今年34歳になります。大学卒業後、就職をきっかけに愛知県名古屋市に住むことになりました。

仕事は出張が多く、休みは一人または同僚と仕事から神社やお寺巡りすることが殆んどで、また資格取得のための勉強にあて、煮え切らない日々を過ごしていました。20代は無我夢中で仕事に集中していて、30代に入り人生に仕事以外に没頭できるものが欲しいと思うようになりました。

出張も仕事も落ち着いて2019年に、何となく見ていたYouTubeで登山をする動画を見、登頂して感動する姿を見て、ちょっと登ってみるかと思い、思い切って三重県の御在所岳に登ることにしました。なぜ、その山を選んだかというところ、ネットで登山グッズを販売している好日山荘というお店でウェアを購入することにして、その時に店員さんに相談したら、初心者の方は三重県の御在所

岳をおすすめですと教えて頂きました。御在所岳は景色が良ければ琵琶湖が眺められ、ちょっとした小キレットも楽しめるよ（当時は意味が分かりませんでした）”とのことで、その山に決めました。登頂すると何とも言えない美しい景色を眺めることができ、また山頂で景色を眺めながらのカップヌードルは、平地で食べる何倍も美味しく感じました。

そこで、もう少し登山をやりたいと思うようになり、数をこなすうちに名のあある山に登りたいという思いが強くなり、石川県の白山、アルプスの西穂独標、八ヶ岳の赤岳や冬の北八ヶ岳の天狗岳、最近だと表銀座の縦走など、生涯の趣味にしたいと思えるものに出会えて良かったと思っています。

翌々はどこかに山小屋を開きたいと思っています。今はコロナ禍で登山を楽しむことが難しいですが、安心な世の中になれば、皆さんと一緒に登山を楽しんでいきたいです。

初めての登山

遠藤 幸壽

1971年8月、猛暑の一切経山は砂漠のようだった。眼下の五色沼（魔女の瞳）は、エメラルドに輝いて魅力的。その先の置賜盆地は遙か彼方だ。飯豊や蔵王連峰は目前に迫るも、地図の無い私には分からない。

12名のパーティーは早朝の仙台を発ち、JR東北本線で南下、福島駅から路線バスで吾妻スカイラインの浄土平に向かい、登山が始まった。私は登山の心得が無く、Tシャツ、短パンにランニングシューズ。雨具無し、帽子無し、ナップザックにはポリタン水筒と少量のお菓子のみで参加してしまった。

職場山岳会のメンバーは皆、顔馴染みらしく、服装やリュックサックはバッチリ決まっていて、買い揃えた登山用具の話で盛り上がっている。私は就職1年目で仲間外れだ、と思ったら、もう一人居た。Tシャツ、短パンの先輩、佐々木さん。同じ職場で、陸上競技部に勧誘、入部させられた恩人。畑違いの二人は、服装も番外だ。特に先輩は赤短パンに赤Tシャツと、登山には程遠い。しかし、みんなの話の輪に入っている。その人が友達の無い私を、この登山に誘ってくれた。登山経験がなく、知らない人たちと行く気になれなかった私の背

中を押してくれた。

家形山を経て姥湯へ。ガラ場の下りコースの歩きづらいこと、この上ない。それでも混成パーティーは、スイスイと降りて行く。宿泊所の姥湯へ着く頃には、陽は西に傾いていた。ランプの宿で、急ぎ薄暗い露天風呂へ「闇鍋」のごとく入った。そして夕飯に出た鯉の甘煮は、あまりに美味しくて驚いた。米沢藩主の上杉鷹山が、経済立て直しのために推奨した事と聞いて、さらに驚き感心した。

翌朝、霧をかき分けながら滑川温泉に下り、車道に出た。この頃になると、メンバーの話に相づちを打ったり、自分の出身地の東蔵王山麓の話題に花を咲かせた。奥羽本線の峠駅から福島市へ出て、夕刻に仙台駅へ到着。

初めての登山は、その後の多くの山登りの端緒となっている。私が山に行こうと思うとき、いつもどんな景色が待っているかなど、ワクワクする。目に飛び込んでくる光景は、いつも新鮮で、どんな人に出会うか最大の楽しみだ。山は刻々と姿を変え、常に景色は移ろう。私は頂上からの景色が大好きだ。

学んだ事柄は多かった。まず頭を守る帽子を被るべし。身を守るための最初の作業だ。地図は必携。自分の進路やルート把握は、精神的不安を払拭する。飲食物は多めに携行することで、心の余裕を保つ。必要な薬品は常にセットして置く等々。

一番の習得は、単独山行も団体登山でも、自然の山に受け入れられる、パーティーのメンバーに受け入れられる、という納得や充実感が、“自分の居場所を見つけた” 嬉しさとなった事でした。

追 悼

鈴木晃三さんを偲んで——思い出すままに——

柴崎 徹 (7018)

昨、2020年11月25日、山を通して永くお付き合いいただいていた鈴木晃三さんが亡くなられた。享年89歳であった。ここ十数年、日本山岳会宮城支部の山行集会委員などの役員として、毎月の支部役員会に欠かさず出席されていたが、ここ一年近くお見えにならなかったもので、心配を募らせていたが、その矢

先の訃報であった。

鈴木晃三さんは1987（昭和62）年に日本山岳会に入られた。当時の宮城支部では入会を認められるまで数年の“徒弟時代”を過ごすのが慣例であったから、晃三さんとは、かれこれ40年近いお付き合いになるのだと思う。晃三さんは仙台市交通局に勤められており、市役所山岳会と同時に交通局の山の愛好会『茜（あかね）会』に加わっておられた。市役所山岳会は、戦前からの歴史ある山岳会で、戦後における日本山岳会宮城支部の創設にも、この会の方々に負うところが多大であり、会員の多くの方が日本山岳会にも入られて活躍された。『茜会』は、交通局の山好き自然好きの職員、多くは運転手さんや車掌さんによってつくられた自由な愛好会であり、仙台圏の市バス路線や、その先に広がる山のこと、自然のことによく精通した人々によって構成されていた。ここには交通局『茜会』—市役所山岳会—日本山岳会という系図ができていたのかも知れない。

この二つの市役所の会にかかわって、さらに日本山岳会で活躍された方々には、飯野信さん、遠藤昭治さん、佐藤義正さん、高橋功さん、永浦忠吉さん、太田正さんなど、錚々たる方々がいらした。そして鈴木晃三さんも明らかにその一翼を担われたお一人であった。これらの方々に共通していたのは、山登りが達者なことに加えて、自然をよく熟知し、自然の恵みを得る術に長けていたことであろう。どの方も山や自然の変化を巧みに読み取り、春の山菜採り、タケノコ採り、夏から秋の溪流釣り、秋の茸狩り、山芋掘りと、自然を跋涉されていたのである。しかも、それらの方々は、たいがい自分しか知らない特別の“畑”と称する場所をもっていた。晃三さんは、このような方々の中でも一目おかれた達人であり、ときには“師匠”と呼ばれたりする存在であった。

このような自然探索行は、常に単独の道なき山野の行動であるから、それに備えた強靱な精神と体力が必要になるが、それまでの人生で鍛え上げられてきた晃三さんには、それらが備わっていたのだと思う。晃三さんが書かれた文章のひとつに『雑学～ためにならない話～』という一文がある（『宮城山岳支部設立50周年記念誌2008年』）。この文の主題は舞茸（まいたけ）のことなのだが、その中に――

「先ず、その前に入山の心得として、五感を研ぎ澄まし、あらゆる危険に対処すべく我が身を守ることが絶対条件だ。足元には地下足袋を、腰には鉋を、包帯など応急手当品はもちろん、万全の準備のもとで山に入るべきである」と厳しい注文を付けている。これは、ご自分が日常心掛け実行していることを、そのまま文字にされたものだと思う。

このような方々の山からの収穫物は、しばしばお裾分けにあずかった。支部晩餐会恒例のオークションには、各会員からの個性ある出品物が並ぶが、晃三さんの出品物は、その都度見事な山芋であった。おそらく一日がかりで掘り上げてきた逸品であり、いつも競られて人気があった。

オークションで思い出すのは、あるとき晃三さんが重そうに運んできた作品をオークションに並べた。それは朴の木でつくった枕であった。多分、“みちのくの 栗駒山の朴の木の 枕はあれど 君が午まくら”の枕であったのであろう。木枕が競りに登場したのは、後にも先にもこの時だけで、皆んな二の足を踏んだので私が格安で落札した。この木枕は底部が湾曲していて、楽に左右横向きになれるので、本を読みながら寝るのにもってこいであった。いろいろ試行錯誤した挙句の晃三型枕であったのだと思う。

晃三さんとは、特に二人だけで山行するようなことはなかったが、たった一度、3日間を共にする山行があった。それは2004(平成16)年9月に催された、日本山岳会自然保護委員会の上高地での40周年記念の全国集会の時であった。当時、支部の自然保護委員は晃三さんと私とで、記念の年ということで二人揃っての出席が特別に認められたのであった。私たち二人は大会の前日に上高地に入り、山研に宿泊させていただいた。この経験も普通の宿とは違って、日本山岳会の歴史の重みを肌で知る良い一夜になった。

次の日は朝早く会場である西糸屋に移動し、全国集会に出席した。上高地は、松方三郎さんら先人たちによる自然保護委員会発生の地で、会場はその40年の歴史を振り返り、新たな視点のもとに自然保護問題を捉えていこうとする熱気で溢れていた。私たち宮城からは、晃三さんに“これまでの宮城における自然保護活動のあらまし”を発表していただき、私からは“蔵王山頂におけるスノーモービル走行問題”を報告した。各支部からの多様な自然保護活動の具体的

な呈示は、大いに学ぶことがあった。私たちには生涯をかけて山登りする人は、登ることに満足するだけでなく、その自然の永続的な存在に尽さなければならないことを知った大会であった。

翌日は焼岳に登った。私たちの班には案内役の信濃支部の御二人と、山研の山川法子さん、北海道の新妻徹さん、福島の高田雅雄さん、本部の篠崎仁さん、越後の早川英夫さんなど、多士済々。登るほどに会話の弾むパーティになった。

焼岳の山頂近くになると、ドームのあちこちの斜面から噴煙が上がって、これぞ火山といわんばかりの様相を呈してきた。それは東北の火山のあらましを登ってきた私にも特異な経験で、二人とも一步登るごとに、焼岳がいまにも噴火するのではないかと恐れた。頂上は先行していた班の方々に賑っていた。私たちは北海道支部から差し入れされたブランデーを山頂に持ってきていたので、それで登頂を祝って乾杯し、そばと長野のりんごを御馳走になり、20分ほど居て頂上を辞した。帰路、中尾峠にさしかかった時、アサギマダラの一団が下の上高地から峠沢の窪みを次々に舞い上がってきて、飛騨側に越していくのに出会った。巨大な生きた火山を背景にして、越流風に身を委ね、舞い飛ぶ蝶の姿は、どこか今日の私たちにも似ていて感動的であった。

焼岳小屋で昼食のお弁当をいただき、上高地に下ったのは午後3時に近かったと思う。私たちは挨拶もそこそこに帰路を急いでバスに乗り込んだ。松本での電鉄から篠ノ井線への乗換え時間は僅か10分足らず、晃三さんを促がして走り、何とか乗り継いだ。仙台に帰り着いたのは午後9時を過ぎていた。山ほどの日程の詰った上高地での全国集会は、このようにして終わった。日本山岳会は翌年には百周年を迎える。その百周年につながる集会であった。帰る列車の中で“忙しかったけど、何とかこなせたね”と二人で合点しあったのを覚えている。晃三さんとの楽しい、たった一度の山旅であった。『雑学～ためにならない話～』の仕舞いには―― 「逆に採れない年は一日中、山を駆け巡り、疲れ果ててヨタヨタとなってしまうが、そんな時は、見晴らしの良い高台に腰を降し、紅葉の山波を見ながら静謐の中に我が身を委ねたね。何もかも忘れて夢うつつ、目の前の豊饒の森に感謝していると、明日への活力が又、湧いてくるのだ」と達観し、そして、「舞茸は自然環境の変化に弱い菌種である。子々孫々、

私たちはそれを次の世代にそっくり渡す責務があると信ずるものです」と。晃



三さんならではの文言で結んでいる。この文は、役員会で議論が沸騰しても動することなく静かに聞いておられた姿と重なる。

取り止めのないことを書いたが、永きに亘るお付き合いに深く感謝するとともに、晃三さんのご冥福を心から祈る次第である。 (2021. 6. 16日)

宮城支部定例事業の概要

(1) 令和2年度定期総会の開催

令和2年度の総会は新型コロナ感染拡大に伴い、4月26日メールによる審議となった。事前に送付した議案について一括メールにより、メール出席者に諮った。その結果、令和2年度事業報告、令和2年度収支決算報告、令和3年度事業計画案、令和3年度収支予算案、支部規約一部改正案および役員改選案が、メール出席者12名のうち過半数を超える出席者から承認する旨のメール等があり、議案は何れも原案通り承認された。

(2) 月例支部役員会の開催

下記の日程で、シルバーセンター5階会議室において定例支部役員会を開催した。

8月17日(月)、9月16日(水)、10月21日(水)、11月18日(水)、2月18日(木)、3月17日(水)

但し5月、6月、12月、1月の定例支部役員会は、コロナ感染拡大のため中止とした。尚、7月2日(木)に臨時役員会をシルバーセンターで開催した。

(3) 支部会報の発行

支部会報として「宮城山岳通信」及び「宮城山岳」を、下記の通り発行した。

○「宮城山岳通信」(令和2年度分)

第21号(令和2年10月10日)、第22号(令和3年2月10日)

○「宮城山岳」第24号(令和3年1月10日)

「宮城山岳通信」メール配信のお知らせ

日頃より宮城支部の会報『宮城山岳』及び「宮城山岳通信」に格別のご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、これまで年4回発行(但し、昨年よりコロナウィルス感染拡大のため、各山行、行事等が中止、自粛となり、令和2年度は2回の発行)してきました「宮城山岳通信」を、令和3年度の第24号よりメール配信に変更させていただきます。この変更は6月22日に開催されました定例役員会で、次の観点から決定致しました。タイムリーな活動報告の「宮城山岳通信」は、パソコンからのメール配信で対応すべきではないか。但し、パソコンが無い、またはパソコンを使えない方には郵送する方法で対応したらどうか。また会員が増えないなか、本部からの交付金は頭打ちで、経費削減に迫られている、などの考えから「宮城山岳通信」をメール配信することになりました。そこで、今後の「宮城山岳通信」は年4回の基本軸は変えず(但し、コロナの影響で少なくなる場合もあります)、会員の皆様に配信していきます。尚、『宮城山岳』は、これまで通り製本して発行して参ります。会員の皆様には、ご理解を賜わりますよう何卒よろしく願い申し上げます。今後とも会員の皆様のご協力、ご支援を戴きながら、より良い「宮城山岳通信」、『宮城山岳』の編集に当たって参ります。重ねてご協力よろしく願い申し上げます。

最後に、パソコンが無い、パソコンが使えない会員の方で郵送をご希望の方は、会報・編集出版委員の鳥山文蔵まで、お電話いただければ幸いです。

《「宮城山岳通信」郵送ご希望 連絡先》

担当：鳥山文蔵 電話 022(256)1459、 携帯電話 090(2608)5195

宮城支部収支会計報告

(1) 令和2年度 収支決算書

収入の部

科目	当期予算額	当期決算額	増減額	備考
①前期繰越金	111,240	111,241	1	利息
本部から運営交付金	74,000	72,000	-2,000	会員数 36名×2,000円
補助金助成	0	0	0	
支部会員の寄付	0	0	0	
支部友会会費	45,000	40,000	-5,000	2名退会、1名入金
支部行事参加費	50,000	31,500	-18,500	コロナ禍で参加者減
雑収入	5,000	0	-5,000	オークション未実施
②収入合計	174,000	143,500	-30,500	
③総収入	285,240	254,741	-30,499	

支出の部

科目	当期予算額	当期決算額	増減額	備考
臨時雇用賃金	0	0	0	
支部報酬謝礼金	0	0	0	
旅費・交通費	30,000	0	-30,000	全国支部懇談会等中止
通信費・運搬費	40,000	6,679	-33,321	切手・ハガキ・DM便代
会議費・会場借用費	0	12,890	12,890	シルハ ⁺ センター会議室
消耗品費・コピー費	45,000	26,968	-18,032	インク・コピー用紙等
印刷製本費	68,000	55,835	-12,165	宮城山岳・宮城山岳通信
支払手数料	3,000	0	-3,000	
慶弔費	10,000	12,287	2,287	故西部会員献花代
その他	89,240	972	-88,268	マイカー補助金、保険代
資産購入代金	0	0	0	
④支出合計	285,240	115,631	-169,609	
次期繰越金(③-④)	111,240	139,110	27,870	

(2) 令和3年度 収支予算書

収入の部

科目	前期予算額	当期予算額	増減額	備考
①前期繰越金	111,240	139,110	27,870	
本部から運営交付金	74,000	70,000	-4,000	会員数 35 名 × 2,000 円
補助金助成	0	0	0	
支部会員からの寄付	0	0	0	
支部友会会費	45,000	39,000	-6,000	支部友数 13 名 @ 3,000 円
支部行事等参加費	50,000	50,000	0	延べ参加者 100 名 × 500 円
雑収入	5,000	5,000	0	オークション
②収入合計	174,000	164,000	-10,000	
③総収入 (① + ②)	285,240	303,110	17,870	

支出の部

科目	前期決算額	当期予算額	増減額	備考
臨時雇用賃金	0	0	0	
支部報酬謝礼金	0	0	0	
旅費・交通費	0	30,000	30,000	全国地区集会参加助成費
通信費・運搬費	6,679	40,000	33,321	切手、ハガキ、DM 便代等
会議室・会場借用費	12,890	15,000	2,110	シルバーセンター会議室借用代
消耗品費・コピー費	26,968	45,000	18,032	インク、コピー用紙、封筒代等
印刷製本費	55,835	68,000	12,165	宮城山岳、宮城山岳通信
支払手数料	0	3,000	3,000	振り込み手数料
慶弔費	12,287	10,000	-2,287	
その他	972	92,110	91,138	保険加入代など予備費
資産購入代金	0	0	0	
④支出合計	115,631	303,110	187,479	
次期繰越金 (③ - ④)	139,110	0	-139,110	

編 集 後 記

これまで会報・編集出版を長らく担当されました冨塚和衛様、本当にご苦労様でした。この度、冨塚様の後任として担当することになりました鳥山文蔵と申します。前任の冨塚様からバトンタッチされましたが、まだ不慣れな上、パソコンを苦手としているアナログ人間で、会員の皆様に何かとご迷惑、ご不便をおかけすることが多々あるかと思えます。そのときはご容赦下さい。

10年前より膝の具合が悪く、二足歩行が難しくなり山に登れません。“山に登らない会員”が、足の代わりにペン、いやマウスで微力ながらお手伝いしたいと思っております。会員諸兄のご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます、編集後記とします。

(会報・編集出版委員長 鳥山文蔵)

公益社団法人日本山岳会宮城支部会報

宮城山岳第 25 号

発行日 2021年8月10日

発行者 宮城支部長 千石信夫

編集者 鳥山文蔵、千石信夫、冨塚和衛、細川光一、三宅泰

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中 9-12

事務局長 冨塚和衛

T E L ・ F A X 022-255-7398



蔵王に咲くコマクサ